校長研修だより９

あなたは，学校にとって，生徒にとって必要な先生ですか

2021・５・２１　　重枝 一郎

ちょっと強烈なタイトルとはわかっている。とりあえず読んでみてほしい。

先生方は，「どんなに苦しくても，自分の前には生徒がいる」と思って日々の仕事をしている。そして，「苦しいとき，勇気を与えてくれたり，支えたり，元気をくれたりするのは生徒である」ことも知っている。先生方は，生徒がキラキラしていると自分自身も幸せな気持ちになる。私は，先生方がキラキラしていると幸せな気持ちになる。

リーダーという役割は，関係性の中で生まれる。先生方は生徒にとってリーダーである。その際，「自分が生徒だったらどんなリーダーについていきたいか」という想像は大事である。そのことを想像したとき，「頭では想像できたけど，実際はできない。どうしよう。」と思う先生もいるかもしれない。でも，悩む必要はない。“できること”を確実にする。粘り強くする。そして，鉄則がある。**「できないことを一人で悩むな」「できることは一人でするな」**である。私も，教育困難校で大きな悩みを抱えたことがある。これまでの自信を打ち砕かれた瞬間でもあった。生徒は，私にどんな期待をしているのかも想像もできず，これだけ荒れている状態だから，学校としての方針も，さまよい，形骸化している。そんなとき私が何をしたか。昼休み教室に残って黙々と掃除をした。机を並べた。副任の若い先生が手伝ってくれた。生徒には何も求めず。

先生方の“できること”の総和が学校をつくっている。**だから，すべての先生は，なくてはならない存在になる。それが学校である。**ただ，言いたいのは，単に教科の内容を教えるだけでは学校の先生ではない。教えることを通して，生徒たちに人間としての生き方を感じ取らせることが先生の存在意義になる。

自分の 10 年後，20 年後を想像してみよう。どういうリーダーになっていたいか。そのときの後輩や生徒に何を語ることができるか。この「語り」は，さまざまな経験をしておかないと語れない。だから何かを頼まれて，多少嫌な予感がしたとしても，今のうちにたっぷりとしておくことをすすめる。まだ，部主任等をしたことがない先生は，自分がそういう役職を任された時のことを考えて，「そのときには同僚にこういうことを言うかもしれない。みんなに協力してもらわないとできない。」と思うことは，今からしておいたほうがいい。

そしてそれは，失敗してもいい経験である。だから「失敗してもいい」という心構えでいい。とにかくやってみたほうがいい。

私の考えの中に，**「ＰＤ“Ｍ”ＣＡサイクル」**がある。「PDCA サイクル」はよく聞くと思うが，Ｐ（計画）→Ｄ（実行）→**Ｍ（ミス・失敗）**→Ｃ（評価）→Ａ（改善）ということである。昔から励まし的に「失敗は成功のもと」と言われている。これは，ただ気合を入れるという慰め的な言葉ではないと思っている。背景に，「ＰＤＭＣＡサイクル」のように「ミス」を仕組化し，**むしろ失敗を肯定的に捉えている**ということである。

先生方には，成長を実感できる 2021 年度であってほしいと思う。たった２か月の今現在でも，私は先生方のおかげでまた違った気付きがあり，勉強になっている。（これまでの職場の同僚の中で一番いい。あんまり言ってはいけないと思うが）

誰においても，教師人生は，常に新しいもの，新しい出会いとの挑戦の連続である。新しい出会いには，新しい自分が必要となる。新しい自分への脱皮の時は，戸惑いや苦労がある。くじけそうなとき，思い出してほしい。**「できないことを一人で悩むな」「できることは一人でするな」**。とりあえず，**「できることは一人でするな」**の原則から，朝の挨拶をみんなでもうちょい元気にしようか。（特に若手！でかめの声を出せ）（そのうち，職員室挨拶指導係を指名する）